

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月14日
【四半期会計期間】	第64期第2四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	株式会社 ミスターマックス（商号 株式会社M r M a x）
【英訳名】	MR MAX CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 平野 能章
【本店の所在の場所】	福岡市東区松田一丁目5番7号
【電話番号】	福岡（092）623 - 1111（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部財務部長 葛原 亨裕
【最寄りの連絡場所】	福岡市東区松田一丁目5番7号
【電話番号】	福岡（092）623 - 1111（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部財務部長 葛原 亨裕
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第63期 第2四半期累計期間	第64期 第2四半期累計期間	第63期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高(百万円)	51,667	51,778	102,562
不動産賃貸収入(百万円)	2,192	2,176	4,413
経常利益(百万円)	552	113	392
四半期(当期)純利益(百万円)	375	61	328
持分法を適用した場合の投資利益 (百万円)	-	-	-
資本金(百万円)	10,229	10,229	10,229
発行済株式総数(千株)	39,611	39,611	39,611
純資産額(百万円)	21,798	21,503	21,636
総資産額(百万円)	75,238	74,169	73,916
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	11.30	1.85	9.89
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
1株当たり配当額(円)	5.00	5.00	10.0
自己資本比率(%)	29.0	29.0	29.3
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	578	947	1,607
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	913	544	2,079
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,204	1,612	33
現金及び現金同等物の四半期末(期 末)残高(百万円)	2,870	1,694	1,588

回次	第63期 第2四半期会計期間	第64期 第2四半期会計期間
会計期間	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額(円)	8.63	1.66

- (注) 1. 当社は連結子会社が存在しないため、四半期連結財務諸表を作成しておりません。
2. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう、以下同じ)は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクにおいて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社は、小売及びこれに付随する事業を行う単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(1) 業績の状況

「普通の暮らしをより豊かに、より便利に、より楽しく」を経営理念とする当社は、商品政策において、「価値ある安さ」をお客様に提供するべく、特に購買頻度の高い、普通の暮らしに直結する商品について、年間を通じて低価格を実現する取り組みを強化してまいりました。

当第2四半期累計期間の営業収益（売上高＋不動産賃貸収入）は、前期中に開店した3店舗が寄与し、539億55百万円（前年同期比0.2%増）となりました。商品部門別では、地上デジタル放送移行の反動によりテレビやレコーダーが売上げを落としましたが、低価格戦略を強化した飲料・加工食品などの食品部門、洗剤などのHBC（Health and Beauty Care）部門が売上げを伸ばしました。

収益面においては、物流費や広告宣伝費の削減、売上高に応じた人件費のコントロールなど経費節減に取り組み、販売費及び一般管理費は131億70百万円（前年同期比0.6%減）となりましたが、低価格戦略の強化によって売上総利益率が0.9ポイント低下したことなどにより、営業利益は64百万円（前年同期比85.4%減）、経常利益は1億13百万円（前年同期比79.5%減）、四半期純利益は61百万円（前年同期比83.6%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

(総資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は、売掛金や現預金の増加などにより、前事業年度末に比べ2億53百万円増加し、741億69百万円となりました。

(負債)

負債は、借入金の増加などにより、前事業年度末に比べ3億86百万円増加し、526億65百万円となりました。

(純資産)

純資産は、利益剰余金の減少などにより、前事業年度末に比べ1億33百万円減少し、215億3百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税引前四半期純利益が1億45百万円となり、減価償却費9億21百万円を計上した一方で、売上債権の増加6億18百万円、法人税等の支払い14億31百万円などの支出があり、営業活動の結果使用した資金は、9億47百万円（前年同期は5億78百万円の収入）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得による支出4億5百万円などにより、投資活動の結果使用した資金は、5億44百万円（前年同期比3億69百万円減）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

借入金の増加18億23百万円に対し、配当金の支払い1億66百万円などの支出があり、財務活動により得られた資金は、16億12百万円（前年同期比4億8百万円増）となりました。

これらの結果、当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べ1億5百万円増加し、16億94百万円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	39,611,134	39,611,134	東京証券取引所 (市場第一部) 福岡証券取引所	単元株式数 100株
計	39,611,134	39,611,134	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	39,611,134	-	10,229	-	9,944

(6)【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
ヒラノマネージメントビーヴィ (常任代理人 UBS証券会社)	Herengracht548, 1017C G Amsterdam, the Netherlands (東京都千代田区丸の内一丁目5番1号)	6,435.5	16.25
有限会社 Waiz Holdings	福岡市東区松田一丁目5番7号	2,778.3	7.01
ミスターマックス取引先持株会	福岡市東区松田一丁目5番7号	1,459.3	3.68
MrMax社員持株会	福岡市東区松田一丁目5番7号	1,437.1	3.63
株式会社 福岡銀行	福岡市中央区天神二丁目13番1号	1,414.2	3.57
日本トラスティ・サービス 信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,400.3	3.54
平野 能章	福岡市東区	1,057.3	2.67
日本興亜損害保険 株式会社	東京都千代田区霞が関三丁目7番3号	801.2	2.02
平野 耕司	福岡市東区	763.6	1.93
平野 淳子	福岡市東区	743.4	1.88
計	-	18,290.6	46.18

(注) 提出会社は自己株式 6,395.0千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 6,395,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 33,029,500	330,295	-
単元未満株式	普通株式 186,634	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	39,611,134	-	-
総株主の議決権	-	330,295	-

(注)上記「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、3,500株(議決権の数35個)含まれております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ミスターマックス	福岡市東区松田一丁目5番7号	6,395,000	-	6,395,000	16.1
計	-	6,395,000	-	6,395,000	16.1

(注)上記のほか株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が400株(議決権の数4個)あります。

なお、当該株式は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式に含めております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,302	1,602
売掛金	1,152	1,720
有価証券	285	92
商品	9,192	9,288
貯蔵品	67	71
その他	1,795	1,873
流動資産合計	13,796	14,648
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	15,332	15,155
土地	27,369	27,369
その他(純額)	3,126	3,020
有形固定資産合計	45,828	45,546
無形固定資産	355	312
投資その他の資産		
その他	13,941	13,667
貸倒引当金	5	5
投資その他の資産合計	13,935	13,661
固定資産合計	60,119	59,521
資産合計	73,916	74,169

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,763	13,275
短期借入金	625	600
1年内返済予定の長期借入金	8,053	8,270
未払法人税等	482	127
引当金	350	310
その他	3,691	3,370
流動負債合計	26,966	25,953
固定負債		
長期借入金	16,375	18,006
引当金	557	576
資産除去債務	874	884
その他	7,505	7,243
固定負債合計	25,312	26,711
負債合計	52,279	52,665
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,229	10,229
資本剰余金	9,951	9,951
利益剰余金	4,107	4,002
自己株式	2,593	2,593
株主資本合計	21,694	21,589
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	57	84
繰延ヘッジ損益	-	1
評価・換算差額等合計	57	86
純資産合計	21,636	21,503
負債純資産合計	73,916	74,169

(2)【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	1 51,667	1 51,778
売上原価	40,168	40,719
売上総利益	11,498	11,058
不動産賃貸収入	2,192	2,176
営業総利益	13,691	13,235
販売費及び一般管理費		
販売費	2,637	2,560
一般管理費	10,612	10,610
販売費及び一般管理費合計	2 13,249	2 13,170
営業利益	442	64
営業外収益		
受取利息	52	50
受取手数料	115	109
仕入割引	66	27
その他	67	37
営業外収益合計	301	225
営業外費用		
支払利息	166	161
その他	24	14
営業外費用合計	191	176
経常利益	552	113
特別利益		
投資有価証券売却益	0	-
テナント解約収入	93	14
補助金収入	-	70
特別利益合計	93	85
特別損失		
固定資産除却損	2	18
投資有価証券評価損	-	24
割増退職金	-	9
特別損失合計	2	53
税引前四半期純利益	643	145
法人税、住民税及び事業税	346	82
法人税等調整額	78	1
法人税等合計	268	84
四半期純利益	375	61

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	643	145
減価償却費	931	921
引当金の増減額(は減少)	87	23
受取利息及び受取配当金	57	56
支払利息	166	161
投資有価証券売却損益(は益)	0	-
投資有価証券評価損益(は益)	-	24
有形固定資産除却損	2	18
テナント解約収入	93	14
補助金収入	-	70
売上債権の増減額(は増加)	349	618
たな卸資産の増減額(は増加)	696	99
仕入債務の増減額(は減少)	52	342
その他	21	484
小計	603	437
利息及び配当金の受取額	8	8
利息の支払額	151	144
法人税等の支払額	46	431
法人税等の還付額	164	-
収用補償金の受取額	-	30
補助金の受取額	-	26
営業活動によるキャッシュ・フロー	578	947
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	586	405
無形固定資産の取得による支出	16	22
投資有価証券の取得による支出	61	7
投資有価証券の売却による収入	1	-
その他	250	108
投資活動によるキャッシュ・フロー	913	544
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	25
長期借入れによる収入	6,000	6,500
長期借入金の返済による支出	4,585	4,651
配当金の支払額	166	166
その他	44	44
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,204	1,612
現金及び現金同等物に係る換算差額	13	15
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	855	105
現金及び現金同等物の期首残高	2,014	1,588
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,870	1,694

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益はそれぞれ4百万円増加しております。

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

1. 消化仕入による売上の純額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
	400百万円	395百万円

2. 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
従業員給与手当	3,597百万円	3,562百万円
賞与引当金繰入額	414	310
退職給付費用	62	62
減価償却費	931	921
賃借料	2,686	2,706

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	2,190百万円	1,602百万円
有価証券	680	92
現金及び現金同等物	2,870	1,694

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	166	5.0	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年10月25日 取締役会	普通株式	166	5.0	平成23年9月30日	平成23年11月30日	利益剰余金

当第2四半期累計期間（自平成24年4月1日至平成24年9月30日）

1. 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	166	5.0	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月24日 取締役会	普通株式	166	5.0	平成24年9月30日	平成24年11月30日	利益剰余金

（持分法損益等）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間（自平成23年4月1日至平成23年9月30日）及び当第2四半期累計期間（自平成24年4月1日至平成24年9月30日）

当社は、小売及びこれに付随する事業を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 （自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）	当第2四半期累計期間 （自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）
1株当たり四半期純利益金額	11円30銭	1円85銭
（算定上の基礎）		
四半期純利益金額（百万円）	375	61
普通株主に帰属しない金額（百万円）	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額（百万円）	375	61
普通株式の期中平均株式数（千株）	33,217	33,216

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2【その他】

平成24年10月24日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

（イ）中間配当による配当金の総額 166百万円

（ロ）1株当たりの金額 5円00銭

（ハ）支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成24年11月30日

（注）平成24年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月14日

株式会社ミスターマックス
(商号 株式会社M r M a x)

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 工藤 雅春 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴田 祐二 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ミスターマックス(商号 株式会社M r M a x)の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第64期事業年度の第2四半期会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ミスターマックス(商号 株式会社M r M a x)の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。